

令和5年6月16日

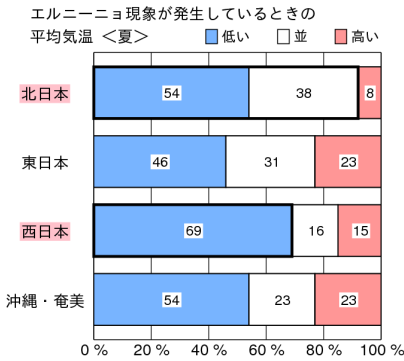
**エルニーニョ現象等発生時の日本の夏と冬の天候の特徴
(海面水温データ更新前後での比較)**

エルニーニョ/ラニーニャ現象の監視に使用する海面水温データを更新、更新した海面水温データを用いて、過去のエルニーニョ現象等について発生期間を特定し直しました(令和5年6月16日報道発表資料)。合わせて、気象庁ホームページ「エルニーニョ/ラニーニャ現象」に掲載している「エルニーニョ現象等発生時の日本の天候の特徴」を更新しました。本資料は、エルニーニョ/ラニーニャ現象発生時の夏と冬の天候の特徴を海面水温データ更新前後で比較したものです。

日本の天候データと比較する統計期間を55年間(1958~2012年)から74年間(1948~2021年)に拡大した影響もあり、統計的な有意性が変わった地域が一部ありますが、統計の更新前後で日本の天候の特徴に大きな変化はありません。例えば、エルニーニョ現象発生時の夏の平均気温を見ると(図1最上段)、統計的に有意となる地域は一部変わりますが、北日本から西日本にかけて平年並か低い傾向は変わりません。

エルニーニョ現象発生時の日本の夏の天候の特徴
(気象庁ホームページ掲載図)

更新前



更新後

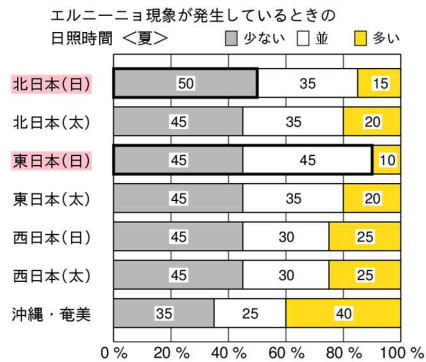
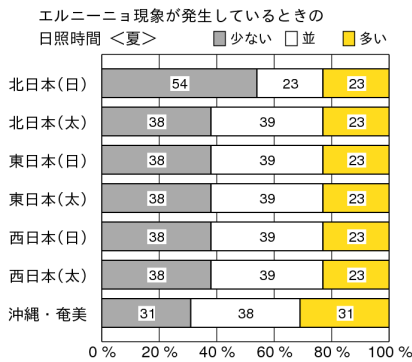
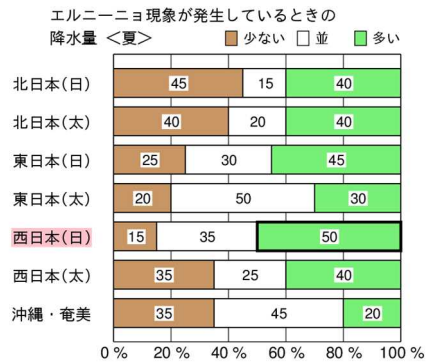
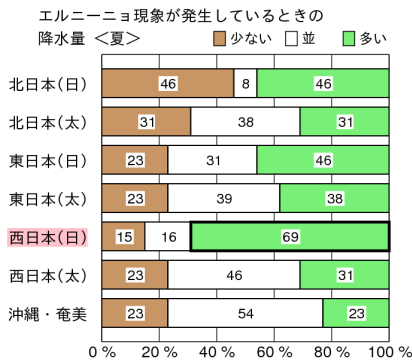
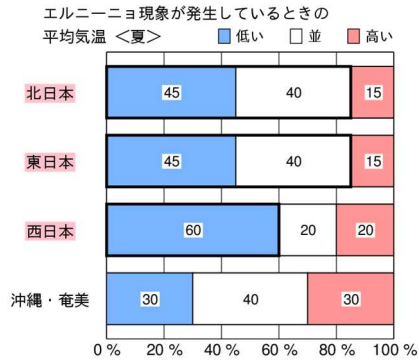


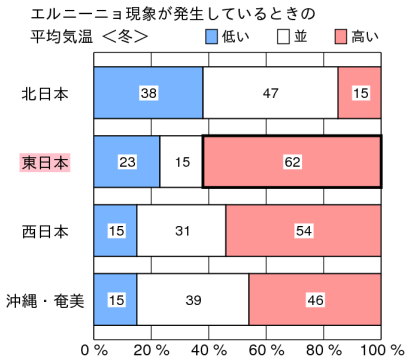
図1 エルニーニョ現象発生時の日本の夏の天候の特徴

気象庁ホームページに掲載している「エルニーニョ現象発生時の夏(6~8月)の天候の特徴」(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/elnino/learning/tenkou/nihon1.html#jja>)を、海面水温データ更新前(左)と更新後(右)で比較したものです。地域名の赤い帯と棒グラフの太黒枠は、統計的に有意な傾向であることを示します。

なお、海面水温データ更新に加えて、日本の天候データと比較する統計期間を55年間(1958~2012年)から74年間(1948~2021年)に拡大しています。

エルニーニョ現象発生時の日本の冬の天候の特徴
(気象庁ホームページ掲載図)

更新前



更新後

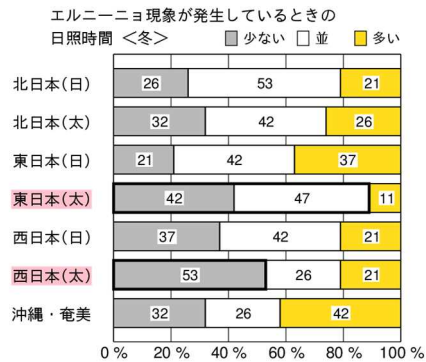
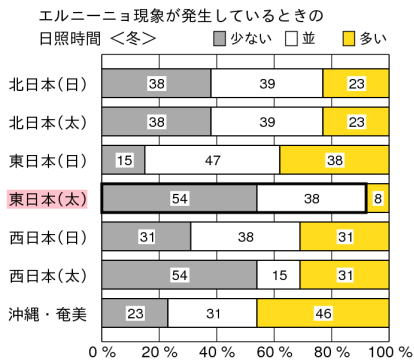
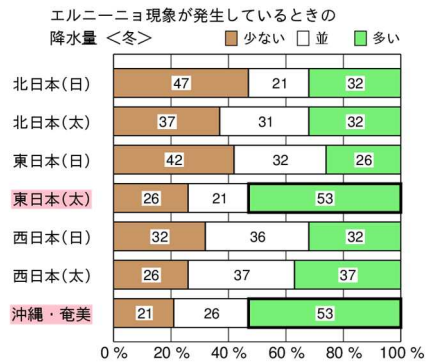
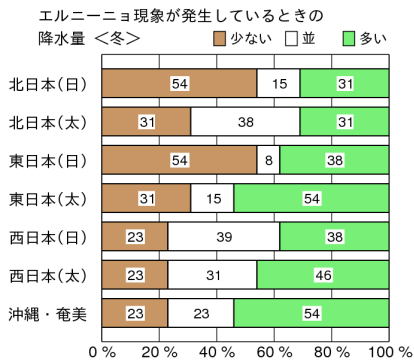
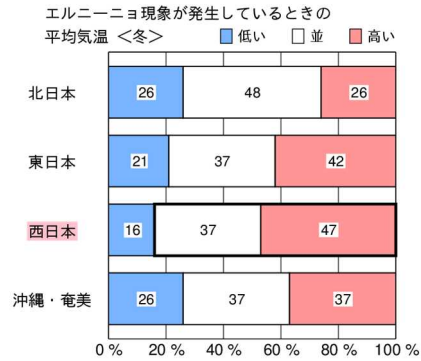


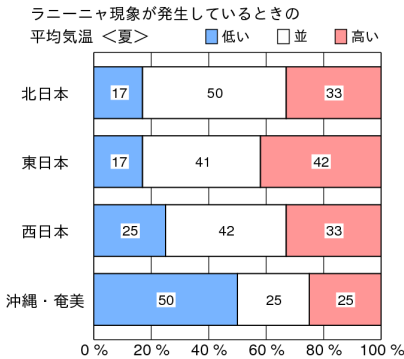
図2 エルニーニョ現象発生時の日本の冬の天候の特徴

気象庁ホームページに掲載している「エルニーニョ現象発生時の冬(12~2月)の天候の特徴」(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/elnino/learning/tenkou/nihon1.html#djf>)を、海面水温データ更新前(左)と更新後(右)で比較したものです。地域名の赤い帯と棒グラフの太黒枠は、統計的に有意な傾向であることを示します。

なお、海面水温データ更新に加えて、日本の天候データと比較する統計期間を55年間(1958~2012年)から74年間(1948~2021年)に拡大しています。

ラニーニャ現象発生時の日本の夏の天候の特徴 (気象庁ホームページ掲載図)

更新前



更新後

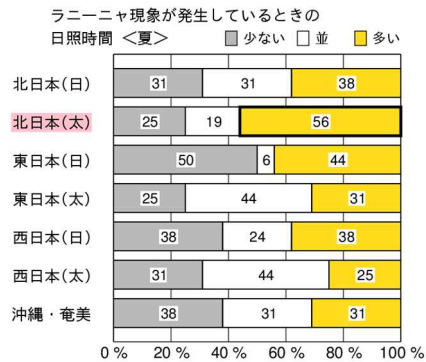
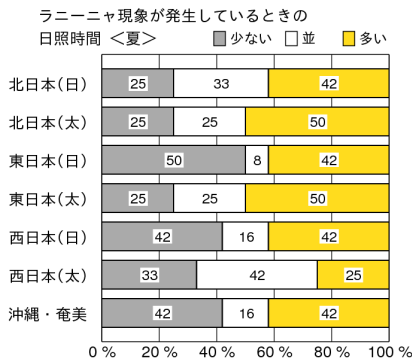
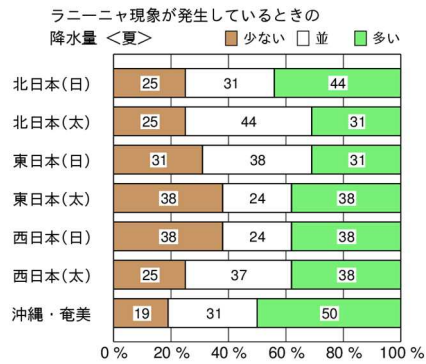
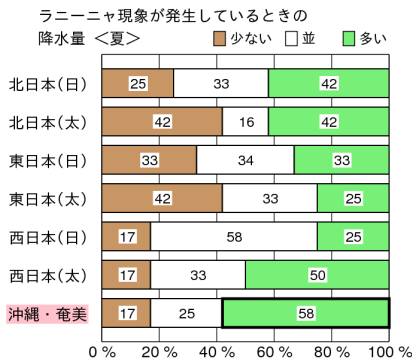
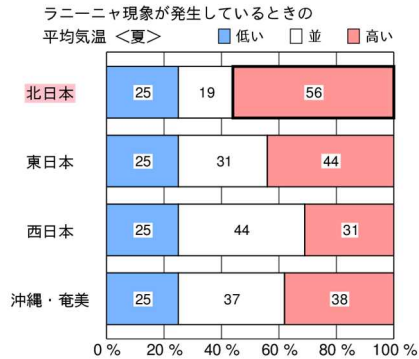


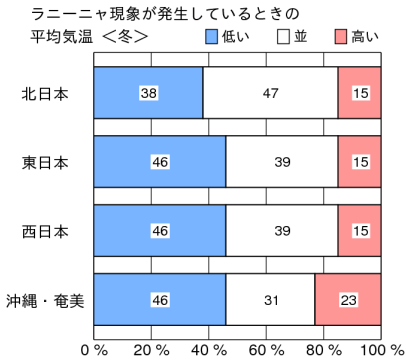
図3 ラニーニャ現象発生時の日本の夏の天候の特徴

気象庁ホームページに掲載している「ラニーニャ現象発生時の夏(6~8月)の天候の特徴」(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/elnino/learning/tenkou/nihon2.html#jja>)を、海面水温データ更新前(左)と更新後(右)で比較したものです。地域名の赤い帯と棒グラフの太黒枠は、統計的に有意な傾向であることを示します。

なお、海面水温データ更新に加えて、日本の天候データと比較する統計期間を55年間(1958~2012年)から74年間(1948~2021年)に拡大しています。

ラニーニャ現象発生時の日本の冬の天候の特徴 (気象庁ホームページ掲載図)

更新前



更新後

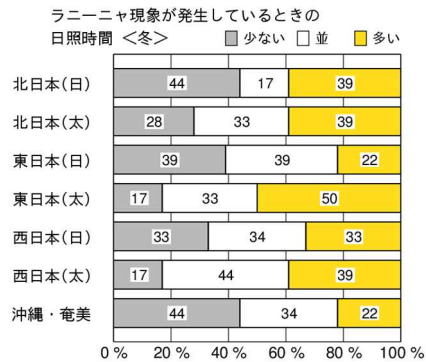
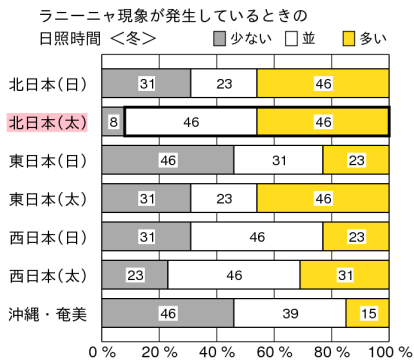
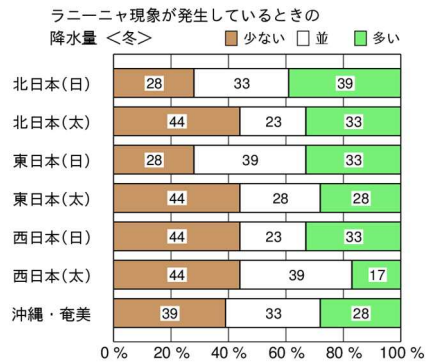
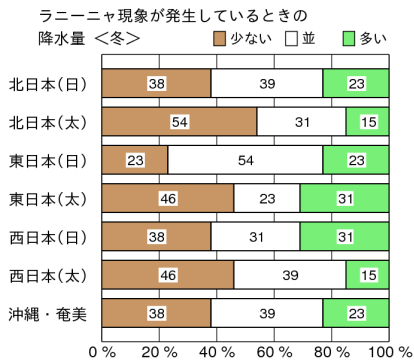
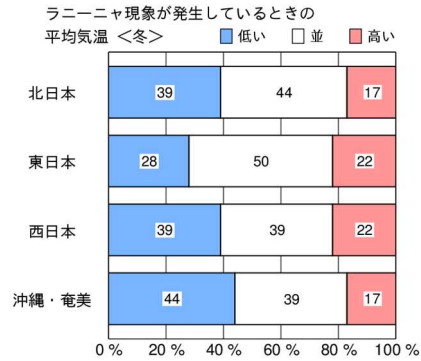


図4 ラニーニャ現象発生時の日本の冬の天候の特徴

気象庁ホームページに掲載している「ラニーニャ現象発生時の冬(12~2月)の天候の特徴」(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/elnino/learning/tenkou/nihon2.html#djf>)を、海面水温データ更新前(左)と更新後(右)で比較したものです。地域名の赤い帯と棒グラフの太黒枠は、統計的に有意な傾向であることを示します。

なお、海面水温データ更新に加えて、日本の天候データと比較する統計期間を55年間(1958~2012年)から74年間(1948~2021年)に拡大しています。